

令和7年度 校内研修全体計画

平 戸 市 立 度 島 小 学 校

校 内 研 究 担 当

1 研究主題

自ら学び表現できる子どもの育成
確かな学力を身につけ、主体的・対話的で深い学びを実現する
国語科指導の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標から

本校では、学校教育目標「郷土『度島』に誇りを持ち、たくましく未来を切り拓いていく、心豊かで活力ある子どもの育成」のもと、家庭・地域と連携と共に、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かで、社会に貢献する児童の育成に取り組んでいる。これらの目標を達成するために、本年度の重点目標として「豊かな心を育てる」「確かな学力をつける」「体力と耐力をつける」を掲げている。特に、「確かな学力をつける」ために、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善や、新学力向上のための3つの提案の一つでもある「できた」「わかった」の笑顔あふれる授業の工夫、小中併設校の特色を生かした学力向上に向けた取組等により、自らの未来を切り拓き、心身ともにたくましく生きる力の育成が必要だと考える。

(2) 児童の実態と昨年までの研究から

本校は、全校児童27名の小規模校であり、完全複式学級で構成されている。児童は、保育所から一緒に過ごしてきたこともあり、みんな仲良く活動したり協力したりする姿が日常的に多く見られる。また、小中併設校ということから、行事等で中学生との関わりも深く、児童生徒ともに良好な人間関係を築くことができている。

本校では、しばらくの間、完全複式学級になることが想定されているため、令和元年度から「自分の考えを表現し、互いに学び合う子どもの育成」を研究主題として、算数科を中心に複式授業の充実を図ってきた。

昨年度は、研究の軸を「自ら学び表現できる国語科授業の工夫を通して」とし、読解力の向上を目指して校内研究を行ってきた。また、児童の発達段階に応じた「学び方の系統」を設定し、学校全体で共有したことで、各学年において必要な学び合い方や活動のスキルを高めることができた。さらに、リーディングスキルが身に付けられるような授業を意識して行ったことで、平戸市標準学力調査で大きな成果を上げることができた。一方、活用の項目においては、「話す・聞く」「書く」の問題で課題が見られた。

そこで、本年度は、これまで培ってきた複式授業の手法を生かし、国語科の指導において、「読解力」の更なる向上を目指した授業改善を進めていく。

※「自ら表現できる子ども」とは

- ・主体的に学び、対話を通して、言葉、文章、図表などを用いて自分の考えを表現できる子供

※「主体的な学び」とは

- ・児童が学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間見通しを持って、粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習へつなげること。

※「読解力」

- ・根拠を明確にして読み取る力

※「対話的な学び」とは

- ・他者や先人の考えと比較しながら考えることを通し、自分の考えを広げること。

※「深い学び」とは

- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、情報や知識を精査して考え、より深く理解すること。

3 研究内容

- (1) 基礎的基本的な学力の定着（RST の活用）
- (2) 読解力向上を目指した授業改善
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- (4) 複式授業の充実
- (5) 小中連携

4 取組の具体的内容

(1) 「読解力」向上の充実を図るために

- ・国語科学習指導に研究の主軸をおき、学習過程の定着を図る。
- ・言語活動の工夫
- ・学習過程を「つかむ」「調べる」「深める」「広げる」とし、全学年で「複式授業の工夫」を共通理解する。

- ・「深める」過程での学び合いが充実するように、各学年に応じたガイドマニュアルの工夫を図る。また、振り返りでは、書く活動を取り入れて、表現力を高める。
- ・基礎・基本の定着の1つとして、タブレット端末を活用する。
- ・研究授業を1人1回行う。 ※研究授業計画は別途提案。
- ・冬休み又は1月中：実践報告
- ・基礎的・基本的な学力の定着に向けて（ホップタイムの取組）

月（国語科 スキルタイム「読解力」）	火（算数科 スキルタイム「基礎問題」）
水 学級タイム・S委員会・児童集会	金（国語科 スキルタイム「表現力」）

※木は、特別時間割のため、ホップタイムはなし。

- ・問題プリントの整理・作成、RSTの活用
- ※読解力プリントを活用する。

（２） 読解力向上を目指した授業改善

〔授業改善メソッド、学力向上のための3つの提案、読解力育成プラン、RSを意識した授業〕

- ・言語活動の充実

（３）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

①主体的な学び

- ・興味関心を高め、学びの意味を考えさせる。
- ・学びの見通しをもたせる。
- ・学びに粘り強く取り組ませる。
- ・学びを振り返って次へつなげさせる。

②対話的な学び

- ・思考を表現に置き換えさせる。
- ・互いの考えを比較させる。
- ・協働して課題解決させる。

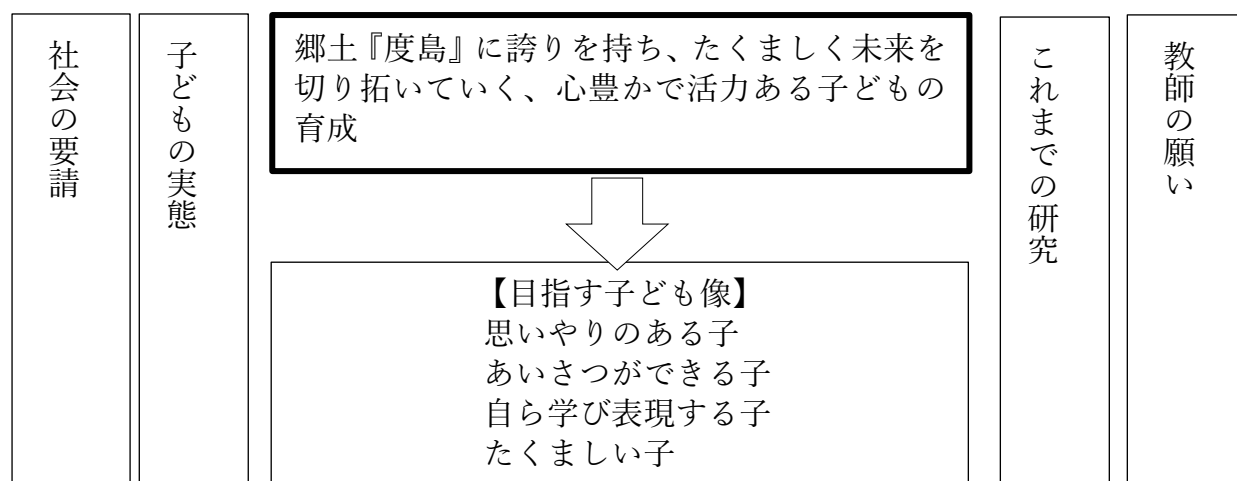
③深い学び

- ・思考して問い続けさせる。
- ・知識、技能を習得、活用させる。
- ・対話的な学びから自分の考えを形成させる。

（４） 小中連携に向けて

- ・お互いの公開授業の参観
- ・継続的な研修への参加
- ・小中合同研究会を1回以上開く。

5 研究構想図



【研究の仮説】

学習指導において、「読解力」の育成を踏まえた「国語科授業」、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行えば、確かな学力を身に付け、「できる・分かる・楽しい」を実感して、自ら学び表現できる子どもが育成できるだろう。

【研究主題】自ら学び表現できる子どもの育成

～確かな学力を身につけ、主体的・対話的で深い学びを実現する
国語科指導の工夫を通して～

取組の内容

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着（ホップタイムの取組）
- (2) 読解力向上を目指した授業改善（授業改善メソッド・学力向上のための3つの提案・読解力向上プラン）
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- (4) 複式授業の充実（学習過程の工夫、ガイド学習の充実）
- (5) 小中連携（公開授業の参観、授業研究会への参加）